

小児リハビリについて

小児リハビリでは、現在スタッフ4名で約60名の子どもたちを対象にリハビリを行っています。「身体の使い方が不器用」や「手先が上手く使えない」、「言葉が上手くできない」、「食べたい」等、お子さんの困りごとに対して「もっとしてみたい!」、「できた!」の笑顔や、「すごいでしょ♪」を引き出せるよう、お手伝いさせていただ



歌いたいの実現!!

コロナウイルスの感染拡大も落ち着きをみせ、当院においても「以前のよう」とはいきませんが、徐々に感染対策を講じつつ患者さん同士の関わりを持つことが可能となってきました。そんな中、患者さんのかねてからの希望であるカラオケを、職種間の垣根を越えた多くのスタッフより実施することができました。患者さんの希望を実現するためには、多職種間の連携が不可欠です。

患者さんの「またしたい!!」や「あがしたい!!」を実現し、入院生活に彩を添えるような関わりを今後も心がけていきたいと思います。

部長コラム

私は社会人になって今まで色々な車、バイクを乗り継いで来ました。車高を落としたら下がりすぎ、コンビニにも行けなくなったり車、燃費激悪のデカいアメ車、軽自動車よりも狭いくせに3ナンバーのミニ、爆音をまき散らし迷惑極まりないハーレー等等。それぞれの車、バイクにお金をかけ好き勝手に遊んできましたが、トラックに突っ込まれたり、不具合で泣く泣く手放したりで、結局手元には思い出しか残っていません。思い返すとかなりの散財です。歳を重ね、「もったいないことをしてきたな」としみじみと感じます。最近、家のN-BOXに乗りますが、よく走ります。車内も広いです。燃費も良いです。高速も割安です。結局、普通が一番だと感じる今日この頃です。

リハビリテーション部 矢頭 真



Column

「外来通院や入院中の患者さんとご家族の支えになれるように」

よしみず病院が令和3年12月に開院してから、約1年半となりました。

脳梗塞やてんかん、またパーキンソン病などの神経難病、物忘れ、自己免疫性疾患など様々な疾患の患者さんを担当させていただいています。

治療だけでなく、リハビリテーション部では理学療法、作業療法、言語嚥下と大きく3つの専門分野から、患者さんの状態に対応したリハビリを行っています。看護部では献身的な介護を、薬剤部での的確な服薬指導、また医療ソーシャルワーカーを中心に地域デイサービスやケアマネージャーとの綿密な調整を行い、患者さんとご家族が安心して過ごせるように、病院全体で一丸となって、日々取り組んでいます。

医療や福祉の場においても、スタッフ一人一人が与えられた役割を果たし、お互いが助け合い、個性や多様性を尊重し、同じ目標を共有し達成することがやり甲斐や質の向上へ繋がるのではないか。

病棟や外来で患者さんとご家族が元気になる姿は、私たちにとってもとても励みになります。神経難病の患者さんとご家族が、心身ともに大切な時間を過ごせるように、これからも各部門の皆さんと力を合わせて頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私たち「身体が資本」です。以上のようなことを参考にしていただき、今年度も共に歩んでいきましょう。

脳神経内科 高橋 志織

事務局長就任のご挨拶

令和5年3月より事務局長に就任いたしました石川和彦と申します。

唐突ですが、侍ジャパンが優勝を果たした先日のWBCは普段野球に興味がない人でも何かしら見聞きした話題ではないでしょうか。およそ三年にわたる新型コロナウイルス感染症による様々な不安や脅威を人々に与え続けたマインドを一気に吹き飛ばすようなトピックでした。

その大会中、大谷翔平選手が試合前円陣で発した言葉、今日だけは目の前の有名なメジャーリーガーへの憧れを捨て、優勝という唯一無二の目標に向かって臨もうという言葉が多くの方に感銘をもたらしました。実は、この試合前円陣での声掛けは毎試合行われており、準決勝の試合前にはダルビッシュ選手が宮崎キャンプからの約1ヶ月を振り返り、ファンや監督・コーチ・選手への感謝の気持ちを述べていました。そして控えめに言って、我々はチームワークも実力も今大会ナンバーワンだと。そして決勝で強敵アメリカに勝利し、共通目標である優勝を成し遂げたのです。

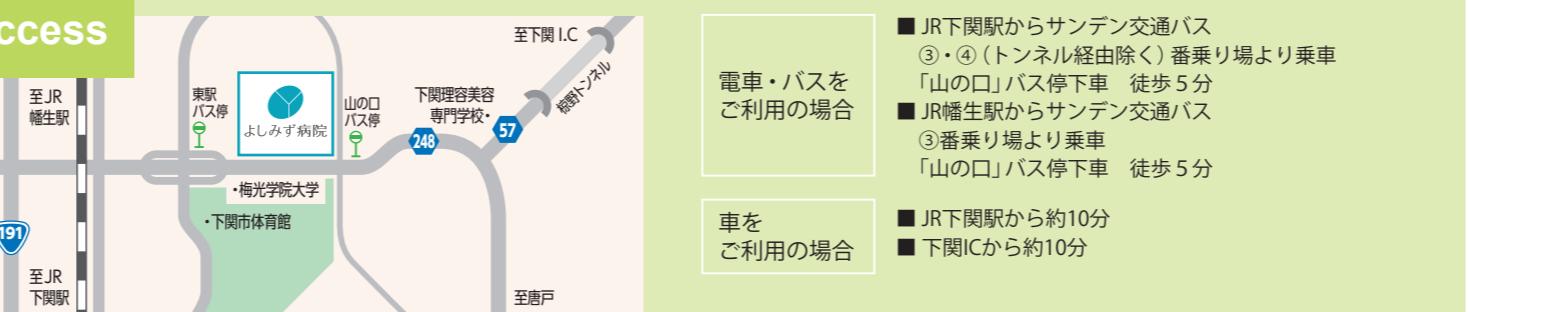
医療や福祉の場においても、スタッフ一人一人が与えられた役割を果たし、お互いが助け合い、個性や多様性を尊重し、同じ目標を共有し達成することがやり甲斐や質の向上へ繋がるのではないか。

そして、それらを行うにあたり重要なことは、一人一人が心身ともに健康であることだと思います。規則正しく(七時間以上の睡眠とバランスの取れた食事)、ストレスを発散(趣味や休息)し、持病がある人はしっかりと管理(受診や治療、服薬)し、節酒・禁煙に取り組み、感染症の対策を適切に行うことで健やかな日常を過ごすことができるでしょう。

私たち「身体が資本」です。以上のようなことを参考にしていただき、今年度も共に歩んでいきましょう。

事務局長 石川 和彦

Access



〒751-0826 山口県下関市後田町1丁目1番1号
TEL: 083-231-3888 FAX: 083-231-7957
E-mail: hosp@akn-yoshimizu.com

よしみず病院
<http://www.akn-yoshimizu.com/>



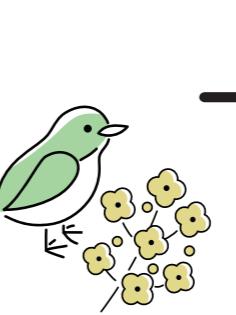
門司病院
<http://www.akanekei-moji.com>



よしみず病院附属看護学院
<https://yoshimizu-kango.com>



よしみず病院 083-231-3888
平日 午前9:00 ~ 午後5:00 土曜日 午前9:00 ~ 午後0:00

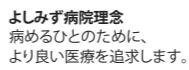


TOKIYO

31
2023.MAY

時世
「世」という文字は「世」とも書き、「十」を3つ重ねた文字であり、30を表す30年間を意味します。茜会創立30周年にちなみ、「時世」と改称しました。

茜会理念 医療法人茜会は、外来・入院・在宅の三位一体の総合医療を目指し、地域医療に貢献します。



よしみず病院理念
病めるひとのために、
より良い医療を追求します。

基本方針

- 先進的な医療・介護に取り組みます。
- 思いやり、優しさを持って患者さんに接します。
- 難病や障害を持つ患者さんに、適切な医療・リハビリテーションを行います。
- 職員は健全な経営を行うため努力し、働きやすい病院を目指します。

世界中のメガファーマ、ベンチャー企業が、希少神経疾患を重点分野として新薬開発に「真面目に」乗り出しており、神経難病を治療することのできる薬が次々と上市されています。「治る」時代になれば、私たち脳神経内科医の責務はますます重要なものになってきます。関門地区には脳神経内科医が少なく、多くの神経難病の患者さんが適切な診療を受けられない状態が続いている。また、治ると言っても脳は脳、肝臓や胃腸と違って一旦障害を受けたことで一生障害をひきずる患者さんも少なくありません。したがって、急性期病院だけでは脳神経内科の医療は完結しません。脳神経センターよしみず病院は、神経・筋疾患の正確な診断から初期治療、リハビリから介護・看取りまでを一貫して行い、良質な脳神経内科医療を提供する病院として、全国に類を見ない存在になる可能性を秘めています。まずは神経・筋疾患の西日本の拠点を目指して、一丸となって前進していきたいと考えています。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

脳神経内科は、脳血管障害、てんかん、頭痛、認知症などのcommon diseaseから神経変性疾患、脊椎・脊髄疾患、神経感染症、末梢神経疾患、筋疾患などを診療する非常に守備範囲の広い診療科であるとともに、338指定難病の25%を受け持つ、難病に特化した科でもあります。従来、脳神経内科が担当する疾患のほとんどには有効な治療手段がなく、脳神経内科医は「治らない病気をいじくりまわしている変わり者の集団」と揶揄される状況が続っていました。しかし、時代は変わりました。

院長あいさつ	01	よしみずワイド in YouTube	04
第21回TQM発表大会を開催しました／米国在住の日本人の帰国定住プロジェクトに協力／認知症キッズサポートー養成講座を実施	02	小児リハビリについて／歌いたいの実現!!／部長コラム	05
令和5年度特定医療法人茜会入社式／新任医師のご挨拶	03	脳神経内科／事務局長就任のご挨拶	06

VOL.31 2023.MAY Contents

